

I. 2024年3月期 第2四半期 決算概要



執行役員 財務部長
井出 和史

東海旅客鉄道株式会社
2023年10月31日

損益計算書（連結）

（億円）

	2022年度 2Q累計 A	2023年度 2Q累計 B	増減 (B-A)	主な増減要因
営業収益	6,341	8,175	1,834	
運輸業	5,145	6,716	1,571	(+) JR東海(運輸業)
流通業	636	772	135	(+) 東海キヨスク、JR東海パッセンジャーズ、 JR東海高島屋
不動産業	373	411	37	(+) 東京ステーション開発、JR東海不動産
その他	1,030	1,102	72	(+) JR東海ホテルズ、JR東海ツアーズ
営業費	4,622	5,054	432	
営業利益	1,719	3,120	1,401	
運輸業	1,605	2,898	1,292	(+) JR東海(運輸業)
流通業	26	58	32	(+) 東海キヨスク、JR東海パッセンジャーズ、 JR東海高島屋
不動産業	98	120	21	(+) 東京ステーション開発、JR東海不動産
その他	△4	47	52	(+) JR東海ホテルズ、JR東海ツアーズ
経常利益	1,362	2,786	1,423	
親会社株主に帰属 する四半期純利益	969	1,950	981	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

損益計算書（単体）

3

（億円）

	2022年度 2Q累計 A	2023年度 2Q累計 B	増減 (B-A)	主な増減要因
営業収益 (運輸収入)	5,193 (4,830)	6,763 (6,407)	1,569 (1,576)	新幹線+1,510、在来線+66
営業費	3,544	3,825	280	
人件費	861	883	21	ベースアップ等
物件費	1,508	1,744	236	
動力費	277	302	25	単価の増等
修繕費	400	554	153	大規模改修引当金取崩し終了等
業務費	830	888	57	発売手数料の増等
租税公課	192	211	18	
減価償却費	981	986	4	
営業利益	1,648	2,937	1,288	
経常利益	1,284	2,599	1,315	
四半期純利益	904	1,839	935	



- Ⅱ. 足元の状況
- Ⅲ. 2024年3月期 業績予想
- Ⅳ. 主な施策展開
- Ⅴ. 中央新幹線計画の状況

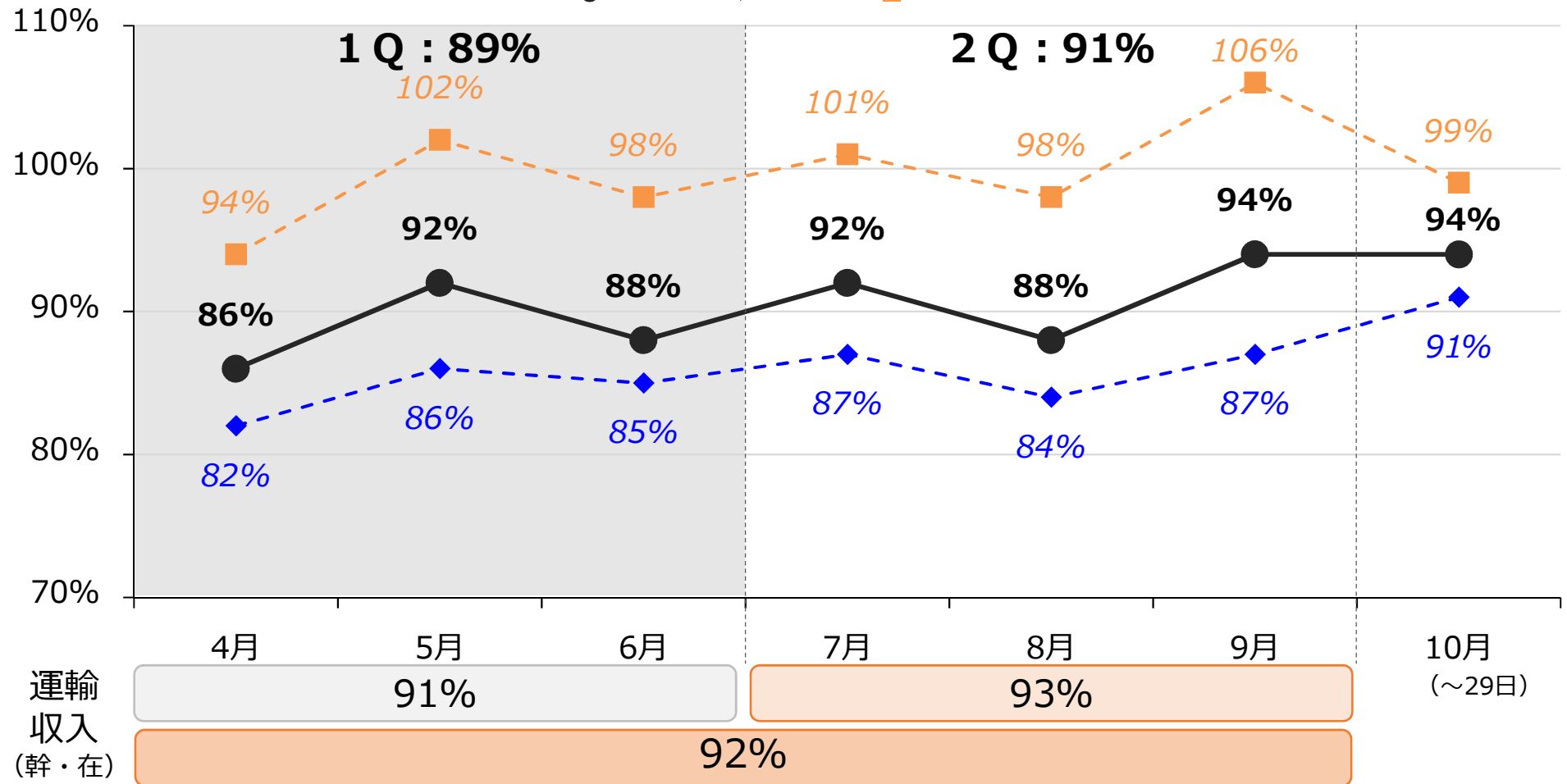
代表取締役副社長
武田 健太郎

東海旅客鉄道株式会社
2023年10月31日

東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

■ 東海道新幹線のご利用状況（東京口、2018年度比）

● 合計 ◆ 平日 ■ 土休日

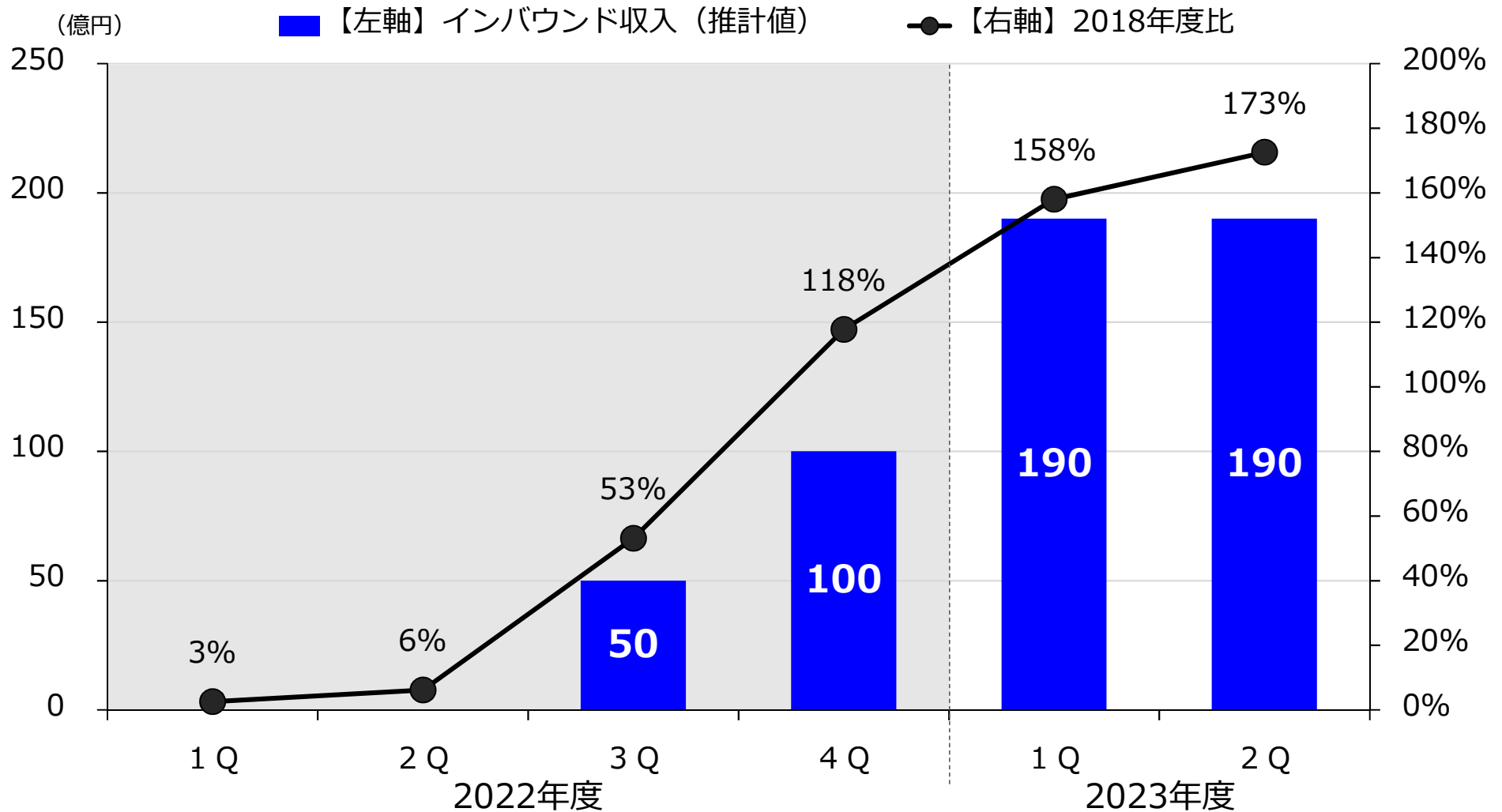


※2018年度比

- 8月に台風7号及び静岡地区大雨に伴い運休が多数発生した影響があったものの、第2四半期も輸送量は平日・土休日ともに緩やかな回復傾向が継続
- 上期累計の運輸収入は、業績予想を516億円上回る

インバウンドの状況

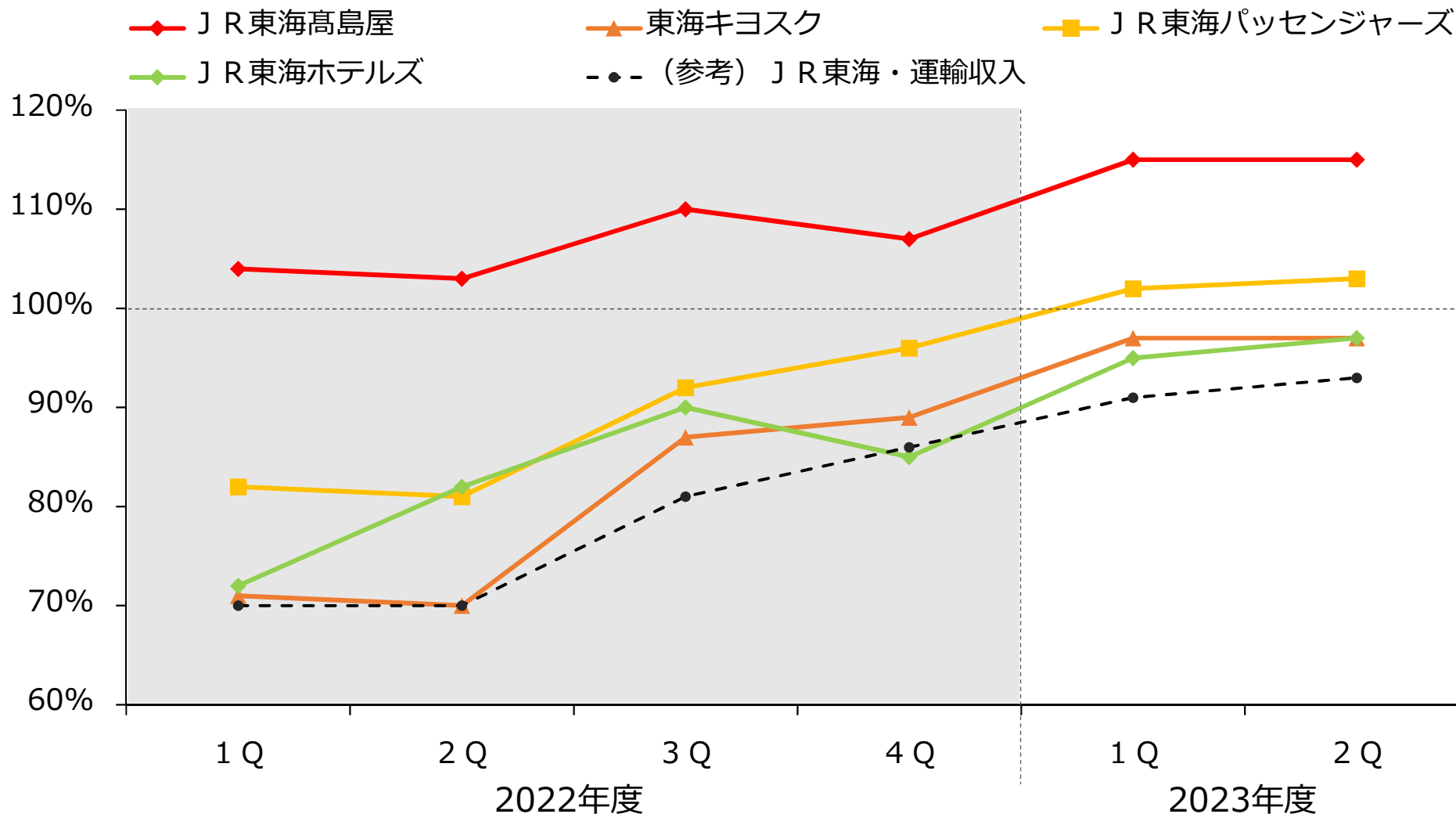
※インバウンド収入（推計値）は10億円未満切捨



- 2023年度上期インバウンド収入（推計値）は約380億円（2018年度比：165%）
- 引き続き、増加傾向の訪日外国人の需要を取り込んでいく

グループ事業の状況

■ 主要なグループ会社の営業収益 (※) の状況 (連結修正前・2018年度比)



○ 主要なグループ会社の営業収益 (※) も運輸収入同等以上のペースで回復

※収益認識に関する会計基準の影響を取り除くため、

JR東海高島屋は、百貨店売上、タカシマヤゲートタワーモール取扱高、テナント賃料の合計

2024年3月期 業績予想（単体）の修正

■ 損益計算書

（億円）

	2022年度 実績 A	2023年度 前回予想 B	2023年度 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益 (運輸収入)	11,433 (10,699)	12,940 (12,220)	13,460 (12,730)	2,026 (2,030)	520 (510)
営業費	7,970	8,830	8,710	739	△120
人件費	1,700	1,750	1,750	49	—
物件費	3,826	4,640	4,520	693	△120
動力費	632	730	580	△52	△150
修繕費	1,366	1,890	1,880	513	△10
業務費	1,827	2,020	2,060	232	40
租税公課	402	420	420	17	—
減価償却費	2,040	2,020	2,020	△20	—
営業利益	3,463	4,110	4,750	1,286	640
経常利益	2,788	3,380	4,060	1,271	680
当期純利益	2,019	2,390	2,900	880	510

2024年3月期 業績予想（連結）の修正、配当

■ 損益計算書

(億円)

	2022年度 実績 A	2023年度 前回予想 B	2023年度 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益	14,002	15,660	16,270	2,267	610
運輸業	11,340	12,840	13,360	2,019	520
流通業	1,387	1,470	1,540	152	70
不動産業	773	800	810	36	10
その他	2,494	2,490	2,540	45	50
営業費	10,257	11,360	11,250	992	△110
営業利益	3,745	4,300	5,020	1,274	720
運輸業	3,385	4,030	4,670	1,284	640
流通業	83	60	100	16	40
不動産業	173	160	180	6	20
その他	100	70	110	9	40
経常利益	3,074	3,570	4,330	1,255	760
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,194	2,500	3,080	885	580

■ 配当

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

安定配当を継続。中間配当は予想通り、期末配当予想は変更なし。

「E Xポイント」

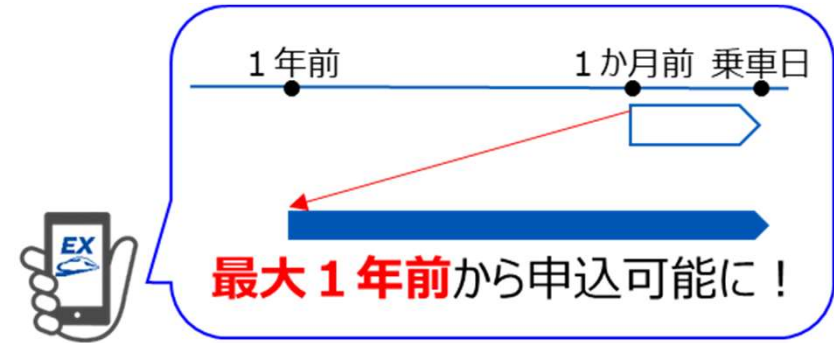
E Xサービスでのチケットレス乗車で、東海道新幹線の利用区間等に応じてポイントが貯まるサービスを開始

(例) 東京～新大阪 普通車指定席 / 1名
片道ご利用時の付与ポイント

会員種別	E Xポイント
エクスプレス予約	83ポイント
スマートE X	41ポイント

新幹線の一年前予約

E Xサービスで最大一年先の指定席予約が可能に



「E X旅パック」

宿泊施設や特別な体験等と新幹線がセットになった、新幹線を乗車直前まで変更可能な国内初の旅行商品

<代表的なプラン例>

- 社寺等での特別拝観 (京都)



嵐山 祐斎亭

「E X旅先予約」

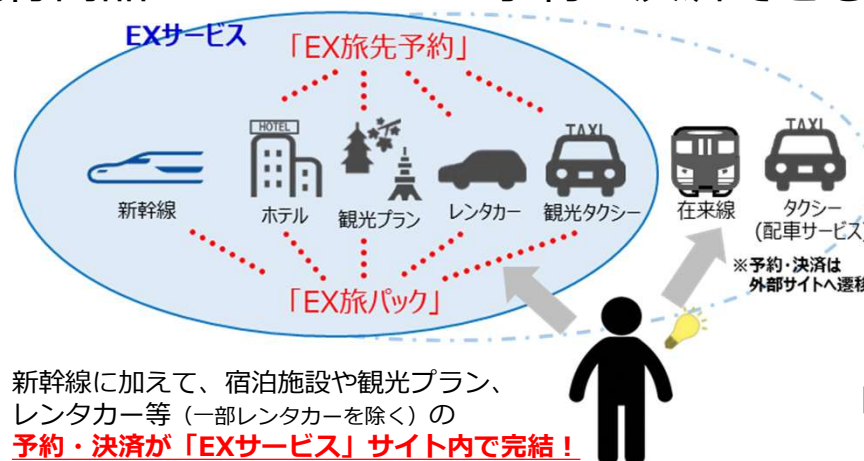
E Xサービスに登録済のクレジットカードで観光プラン・移動手段等をシームレスに予約・決済できるサービス

<代表的なプラン例>

- 東京スカイツリー (東京)



「天望デッキ・天望回廊セット券」とスイーツのセットプラン





アプリでポイントが貯まる・使える!

JR東海グループの駅商業施設

(32施設、約1,000店舗) で利用可能

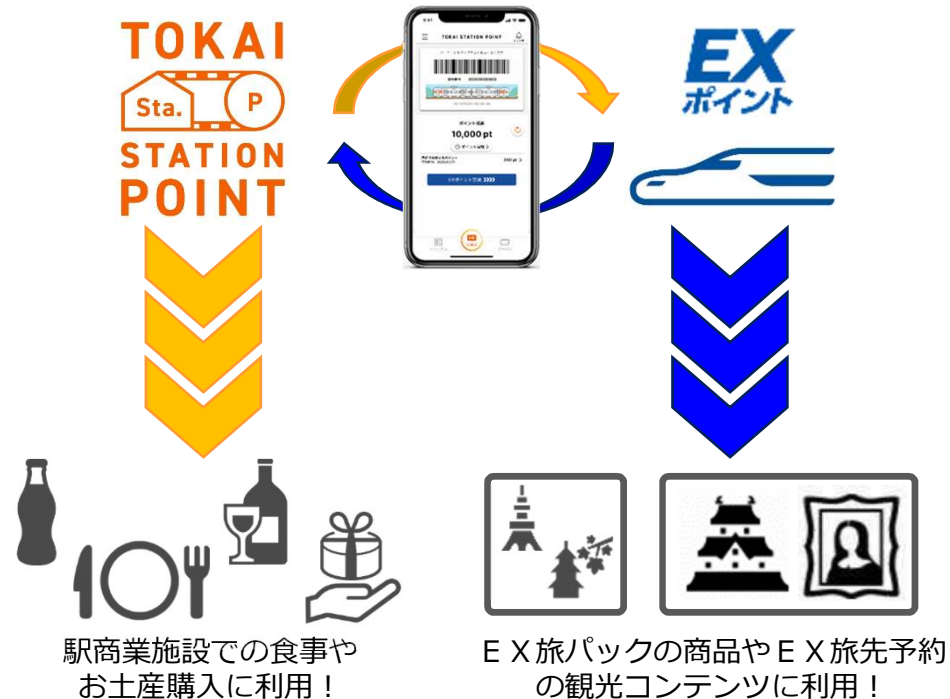
貯まる: 110円(税込)で1ポイント

使える: 1ポイント (= 1円) 単位

※今後、駅売店やホテル、ECサイトにも展開予定

「EXポイント」と相互交換

EXサービスとのID連携により、ポイントを1ポイント単位で相互に交換可能



名古屋マリオットアソシアホテル スイートルーム改装

- 目的
国内外富裕層や記念日需要等に
応えるため
- 改装概要
 - ・ 開業以来初のスイートルーム全面改装
 - ・ 客室のデザインを5つのタイプに一新
 - ・ スイートルーム客室数を18室に増強
(+3室)
- 営業開始日
2023年9月20日



改装後のスイートルーム
(ヨーロピアンモダン)

ジェイアール名古屋タカシマヤ ラグジュアリーゾーン大規模リニューアル

- 目的
ファッション感度の高い若年層や、ハイ
ブランド需要の取り込みを強化するため
- 改装概要
 - ・ 開業時より取扱高が8倍と伸び続ける
「ラグジュアリーゾーン」を1.5倍に拡大
 - ・ 全52のラグジュアリーブランドが揃う、
東海地区最大級の品揃えを実現
- グランドオープン日
2023年9月29日



ルイ・ヴィトン (レディス) の
リニューアルオープン

鉄道の環境優位性のPR強化

- 鉄道事業者間で連携したPR強化
 - 脱炭素社会の実現に向けて、低炭素な輸送モードである鉄道の利用促進と社会的な理解促進のためJRグループ及び日本民営鉄道協会と連携してPRを強化
 - 各社で共通のロゴ・スローガンを活用し、各鉄道事業者のCO₂排出削減の取組みを紹介



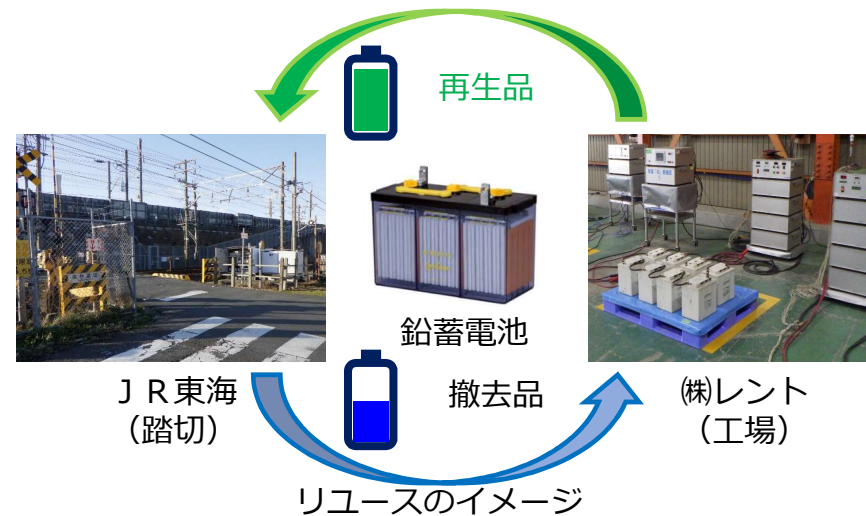
- 直近の取組み
 - 東海道・山陽・九州新幹線の駅間ごとの一人当たりのCO₂排出量を公表

■ 東海道新幹線の主な区間のCO₂排出量

駅名	東京	(単位: kg-CO ₂)	
名古屋	5.1	名古屋	
新大阪	7.8	2.6	新大阪

資源循環に関する取組み

- 踏切の鉛蓄電池のリユース (検証)
 - (株)レントの再生技術で耐用年数経過後の鉛蓄電池の機能を再生し、踏切でリユースすることを目指した検証を開始
 - 再生後の鉛蓄電池を導入できれば、CO₂排出量、廃棄物を削減可能



再生可能エネルギーの活用

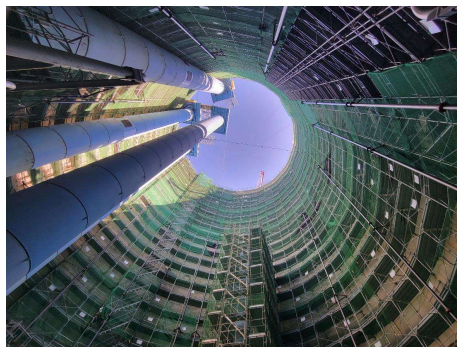
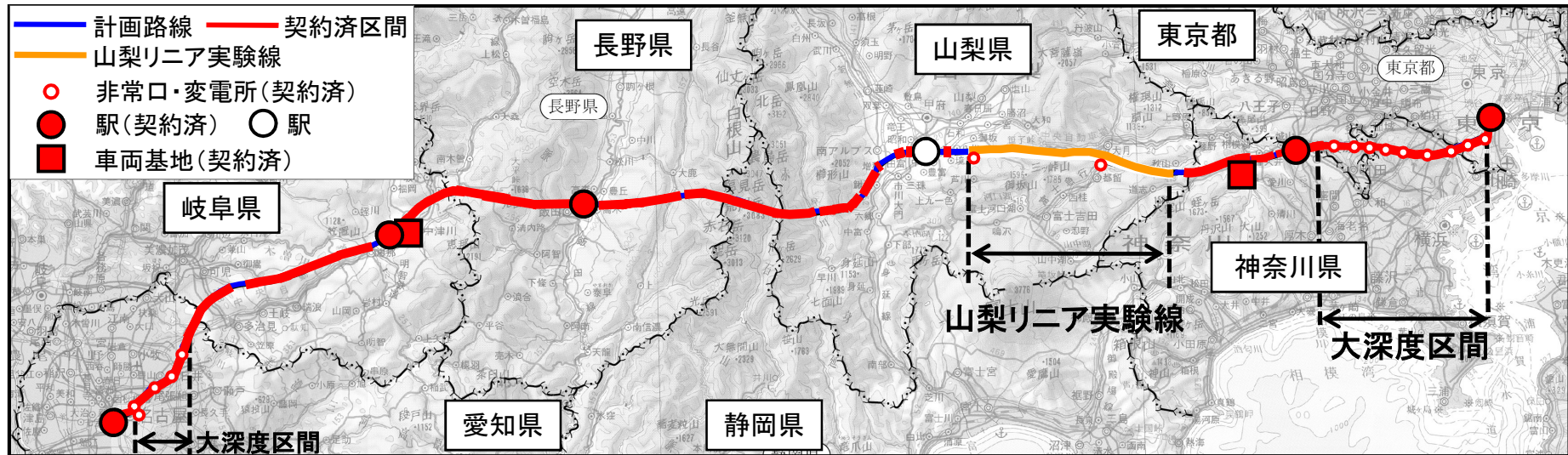
- 新幹線のり面を活用した太陽光発電
 - 掛川駅付近に試験設置



中央新幹線計画の状況①

【本体工事契約箇所（2023.9.30現在）】

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。（承認番号 平25情複、第310号）
 ※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。



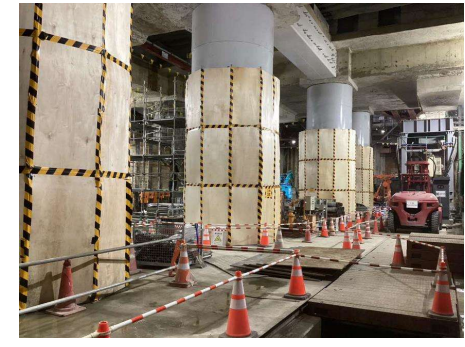
勝川非常口
ニューマチックケーソン工



第一南巨摩トンネル
本坑掘削工 (10/13貫通)



臼井阿原高架橋 (仮称)
上部工 (名古屋方)



品川駅 (非開削工区)
軌道下掘削工

【南アルプストンネル静岡工区】

《大井川の水資源に関する取組み》

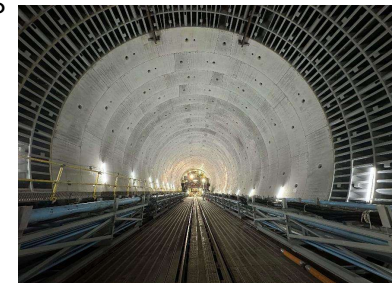
- 国土交通省主催の「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」が2021年12月に取りまとめた「大井川水資源問題に関する中間報告」を踏まえて、地域へのわかりやすい説明、リスク対応とモニタリングの具体化、工事の一定期間、例外的に県外へ流出するトンネル湧水量と同量は大井川に戻す方策の実現等に取り組んでいます。
- 発電のための取水を抑制し、大井川に還元する方策について、本年6月から発電事業者と精力的に協議を進め、実現可能な案を取りまとめたことから、9月下旬より流域関係者の皆様に個別に説明しました。その際にいただいたご意見を踏まえ、具体的な実施案を策定したことから、10月25日に、大井川利水関係協議会の会員の方々のご了解をいただくための文書を、事務局である静岡県に発出しました。

《南アルプスの生態系等の環境保全》

- 昨年6月から、国土交通省主催の有識者会議において議論が進められており、これまで会議で提示された各論点（①沢の水生生物等への影響と対策、②高標高部の植生への影響と対策、③地上部分の改変箇所における環境への影響と対策）について説明しています。
- 9月には、国土交通省から環境保全に関する報告書案が提示されました。

【大深度区間のシールドトンネル工事】

- 大深度地下をシールドマシンで掘削する第一首都圏トンネル東百合丘工区において、9月に調査掘進範囲の掘削を終えました。今後、調査掘進の確認結果を取りまとめたうえで、計画路線周辺にお住いの皆様に対する説明会を開催します。



第一首都圏トンネル 東百合丘工区
調査掘進

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

(参考) 主な子会社の実績・業績予想 (連結修正前)

○実績

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	前期比	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	前期比	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	前期比
JR東海高島屋	247	265	107.3%	17	25	142.2%	18	26	140.0%
JRセントラルビル	159	163	102.2%	18	20	111.6%	17	20	112.7%
JR東海ホテルズ	96	120	125.0%	△9	8	—	△8	8	—
日本車両	436	411	94.3%	12	27	220.8%	13	29	221.9%

日本車両 四半期純利益 10 20 206.5%

○業績予想

(億円)

	営業収益				営業利益				経常利益			
	2022 年度 実績	2023 年度 計画 (前回)	2023 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2022 年度 実績	2023 年度 計画 (前回)	2023 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2022 年度 実績	2023 年度 計画 (前回)	2023 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回
JR東海高島屋	522	544	548	100.8%	45	28	50	180.4%	47	29	52	175.5%
JRセントラルビル	324	333	328	98.7%	25	16	26	163.3%	24	14	25	170.6%
JR東海ホテルズ	218	242	247	102.0%	0	5	9	195.4%	1	5	10	213.0%
日本車両	967	870	870	100.0%	41	39	42	107.7%	42	40	44	110.0%

日本車両 当期純利益 29 30 37 123.3%

(参考) 輸送量の推移 (月次利用状況・多客期利用状況)

◆月次利用状況 Monthly passenger volume (％)

期間 Period	新幹線 Shinkansen						在来線 Conventional Railway		
	東京口 Tokyo Gate					大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends			合計 Total
23/04	140 (86)	134 (87)	169 (87)	138 (81)	140 (82)	140 (94)	142 (88)	162 (85)	111 (89)
23/05	134 (92)	131 (94)	149 (92)	132 (87)	135 (86)	135 (102)	136 (95)	137 (90)	110 (88)
23/06	125 (88)	123 (90)	138 (90)	121 (83)	125 (85)	126 (98)	126 (93)	123 (85)	105 (90)
23/04-06	133 (89)	129 (90)	151 (90)	130 (84)	133 (84)	134 (99)	134 (92)	139 (87)	109 (89)
23/07	133 (92)	129 (93)	159 (94)	131 (86)	133 (87)	134 (101)	132 (95)	135 (116)	112 (91)
23/08	139 (88)	137 (90)	159 (87)	135 (83)	136 (84)	146 (98)	140 (90)	142 (89)	115 (86)
23/09	132 (94)	131 (95)	145 (94)	127 (88)	133 (87)	132 (106)	134 (96)	152 (99)	113 (96)
23/07-09	135 (91)	132 (92)	154 (92)	131 (86)	134 (86)	137 (102)	135 (93)	143 (99)	113 (91)
23/04-09	134 (90)	131 (91)	153 (91)	131 (85)	133 (85)	135 (101)	135 (93)	141 (93)	111 (90)

◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

・ゴールデンウィーク "Golden Week" Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/28~5/7	126 (101)	122 (103)	139 (98)	132 (93)	128 (90)	113 (91)

・お盆期間 Summer Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
8/10~8/17	125 (86)	121 (89)	140 (80)	131 (80)	123 (80)	111 (80)

(※1) カッコ内は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度との比較。

Note1: Numbers in parentheses are compared to FY2018 (before the decline due to the COVID-19 pandemic).

(※2) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note2: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

(参考) 月次営業概況 (商業施設・ホテル)

◆商業施設 Commercial Facilities

ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び タカシマヤ ゲートタワーモール JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall		
期間 Period	売上高合計 2024年2月期 (百万円) Total Sales FY2023: 2023.3~2024.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
23/03	16,828	112.1
23/04	14,319	110.2
23/05	14,548	110.3
23/06	14,477	107.9
23/07	15,515	112.3
23/08	13,254	114.9
23/09	15,112	116.7

◆ホテル Hotels

名古屋マリオットアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel (※)		
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。				
23/04	72.7	20.7	84.7	13.1
23/05	71.4	8.9	81.3	3.3
23/06	72.2	4.2	82.8	-2.1
23/07	69.5	2.3	85.4	4.8
23/08	76.0	8.1	88.0	2.3
23/09	77.3	6.7	85.5	-1.5

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.